

中央線が好きだ。

magazine

vol.6 2016

昔々歩の達人



国立

とれたの



ヤーコンも国立育ち！
珍しい野菜も
入荷しています。



1.一橋大学の店長、小倉一倫さん。2.平日昼と土曜は市民スタッフ、平日夕方と日曜は学生が店頭に。3.人気商品は午前中に売り切れることも。

学生が運営する街の八百屋さん

大学通り沿いにある富士見台団地周辺の地域活性化を目的としたNPO法人くたち富士見台人間環境キーステーション(KF)が運営する、くたち野菜と地域食材を販売するお店。KFは一橋大学を中心とした学生、地域の商店主と市民、そして行政が連携して設立。店には朝、市民スタッフが直接農家から集荷したり、届けられたりした野菜が並び、そのほか地元の食材を使った加工品や、学生が集めた日本各地の名産品も販売。

DATA JR中央線国立駅南口からバス約5分の「富士見台第一団地」「第一団地」下車徒歩約1分、またはJR南武線谷保駅北口から徒歩約5分。10時～18時30分(日曜は～16時30分)、無休。国立市富士見台1-7-1 富士見台団地1-103。☎042-573-3444



学生と地域の人 が触れ合う憩いの場

とれたのの隣にあり、同じKFが運営するカフェ。店名は「ここに来るとのしい!」という思いから。一杯ずつサイフォンで淹れるコーヒーと、とれたのはじめ近隣の商店から仕入れた食材を使った日替わりランチが好評。カフェ主催でイベントを行っており、中でも毎月第1日曜の朝10時からのマジック教室は親子で楽しめる。

DATA JR中央線国立駅南口からバス約5分の「富士見台第一団地」「第一団地」下車徒歩約1分、またはJR南武線谷保駅北口から徒歩約5分。11時30分～18時、水曜日。国立市富士見台1-7-1 富士見台団地1-104。☎042-573-9433

1.この日のランチは鶏肉のみぞれ煮。2.店長の高山和樹さんも一橋大学生。3.各テーブルには考案した学生の写真入りのスイーツメニューが。

土日の日替わりランチは
学生が考案しました。



Cafe ここの



駄菓子や「くにちゃん」



子どもたちの楽しい居場所

富士見台団地内で毎週土曜日の午後だけ開店する駄菓子屋さん。駄菓子販売する屋台の後ろの部屋ではアドバイザーの先生が遊び方を教え、アイロンビーズやパズルなどを楽しめる。代表の吉村多恵子さんが、子どもから高齢者までが集まり、ほっとできる居場所を目指して10年前に開店。世代を越えた多文化交流の場にもなっている。

1.代表の吉村多恵子さん。2.アイロンビーズに取り組み子どもたち。3.オープンと同時に子どもたちが集まって来る。4.色とりどりの駄菓子は大人には懐かしい。

子どもも大人も
「ここにいる人はみんな友達!」
と思っています。



DATA JR中央線国立駅南口からバス約5分の「富士見台第一団地」「第一団地」下車徒歩約1分、またはJR南武線谷保駅北口から徒歩約5分。13時～16時、土曜のみ営業。国立市富士見台1-7-1 富士見台団地1-102プラムジャム。☎042-577-1575

街

の中心は、国立駅から南に伸びる大学通り。車道の両側には自転車専用通行帯、緑地帯、歩道が並び、その幅約44m。緑地帯には約160本の桜と約120本のイチエウが植えられ、季節ごとに市民の目を楽しませてくれる。そして、駅南口ロータリーから南東に旭通り、南西に富士見通りが放射状に伸びる。この3本の目抜き通りの沿道と周辺には、カフェや洋菓子店、レストラン、ブティック、インテリアショップ、アンティークショップが点在。さらに地の食材を販売する店舗や、地元野

菜を使ったメニューを提供する居酒屋も。こだわりを感じさせる個性的なショップは、暮らしている人はもちろん、訪れる人にとっても楽しみのひとつになっている。そしてこれらの道を少し入ると、そこには静かな住宅街が広がっている。もうひとつの街の特徴は、小学校から大学まで多くの学校が集まっていること。一橋大学をはじめ国立音楽大学附属の学校や、桐朋学園、国立高校などがあり、学園都市を形成している。一橋大学の重厚な校舎やロマネスク様式の講堂などが、ア

カデミックな印象を醸し出し、街の雰囲気作りに一役買っている。平日の朝夕は通学・帰宅の生徒や学生たちの声で街が活気づく。親子で散策を楽しむときに寄ってみたい場所にもことかかない。土曜のみ開店する駄菓子や「くにちゃん」は、昔ながらの駄菓子とともに併設のプレイルームが人気。日曜ならば、市南部の自然を生かした遊具が楽しい「冒険遊び場」がおすす。また、本物の車両を展示室にしている「新幹線資料館」も見逃せない。子どもはもちろん、大人も一緒に楽しめる。

こんなところに住んでみたい
この街、
居心地・
住み心地



のんびり気分心地いいお散歩を



季節ごとの 変化が楽しめる国立の シンボルストリート

国立駅南口のロータリーからまっすぐ南に伸びる街のメインストリート。春先の桜で知られるが、若葉から新緑、さらに秋の黄葉、冬のイルミネーションと四季折々の景観も楽しめ、親子がのんびり散歩する姿もよく見られる。東京都が選定した新東京百景のひとつにもなっている。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約1分。

1.散歩が楽しい新緑の季節。2.秋の日に輝く黄葉したイチエウも見逃せない。3.国立名物の満開の桜。街には多くの人が訪れる。
写真提供:国立情報WEBマガジン「くたちハッピーポスト」、国立市

大学通り

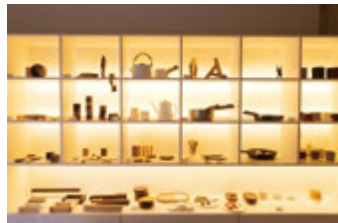


おしゃれなデザインで使いやすい
シンプルで使いやすい
おしゃれなデザインの道具たち

こいずみ道具店

日用品から建築までを手掛けるデザイナーの小泉誠さんがデザインした製品を販売。使いやすいスタイリッシュなキッチン用品、器や箸、茶器などが並ぶ。また、幼児用の木のぬくもりを感じられる椅子や乗物玩具、だるま落としなどのおもちゃも人気。

DATA JR中央線国立駅南口からバス約3分の「国立高校前」下車徒歩約1分、またはJR南武線谷保駅北口から徒歩約8分。15時～18時、不定休。国立市富士見台2-2-31。☎042-574-1464



上/ポットや鍋など壁に並んだキッチン用品の数々。やわらかな光の棚の展示が印象的。左/幼児用の椅子は0歳用から5歳用まで1歳ごとに大きさを変えて作られている。



こいずみ道具店の「だるま落とし」

ロージナ茶房

昭和29年創業の老舗カフェ。壁のガラスケースには絵画やガラス工芸品などが並び、ギャラリー風の造り。初代オーナーは新聞記者で画家でもあったため、創業時から作家など多くの文化人が訪れた。現在はカフェだが、当初はレストランとカフェに分かれていたため、今もボリュームたっぷりのカレーやパスタ、グラタンなど食事メニューも充実。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約2分。9時～23時(22時30分LO)、無休。国立市中1-9-42。☎042-575-4074



右/昔ながらの喫茶店といった趣の外観。下/2階は窓が大きく取られ明るく、落ち着いた雰囲気。長居をしてみよう。



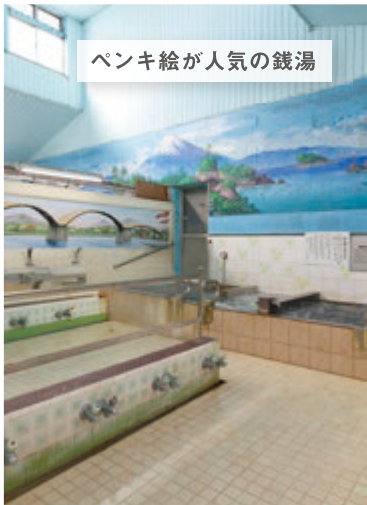
レトロモダンなインテリアの名物カフェ

鳩の湯

創業は昭和33年で、国立市内唯一の銭湯。現在日本に3人しかいないという銭湯絵師のひとりで、国立在住の丸山清人氏のペンキ絵も楽しみのひとつ。この絵を一目見ようと遠くからやって来るファンもいるのだという。シンプルな作りながらの銭湯に、若い世代からの関心が高まっている。ペンキ絵は4月に描き替え予定。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約10分。15時～24時、月曜休。国立市東2-8-19。☎042-572-0918

右/ペンキ絵だけでなく、錦帯橋のタイル絵も見事。左/入り口正面にある傘専用ロッカー。下駄箱は別にある。



ペンキ絵が人気の銭湯



国立の老舗洋菓子店

上/国立産のホウレンソウを使った「ほうれんそうカステラ」。右/広々とした店内。奥の喫茶室は約100席ある。下/店長の竹川敏毅さん。



音楽を聴きながらのお茶の時間はいかがですか。

白十字

昭和30年創業の国立を代表する洋菓子店のひとつ。チョコレートケーキのノクターン、ショコラのキャンタービレ、焼き菓子のメヌエットなど、音楽から発想した商品名が多いのが特徴。桜サブレ、学園ポテトなど、国立にちなんだお土産にぴったりの商品も。喫茶スペースでは不定期で音楽コンサートなどが開催される。



DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約3分。9時～21時(コンサート開催以外の日曜・祝日は～20時、喫茶室は20時LO(日曜・祝日は19時LO))、無休。国立市中1-9-43。☎042-572-0416

自然の中で思いきり遊んだり、幻の新幹線も見ることができる街。オシャレな雰囲気の中に感じる、人と人とのつながりが醸し出す下町感も心地いい。

新幹線資料館・鉄道展示室

国分寺市の施設、ひかりプラザの屋外には新幹線の車両を利用した新幹線資料館があり、屋内には鉄道展示室が設けられている。この車両は昭和47年に、当時世界最速の時速286kmの記録を打ち立てた試験電車。営業運転はされなかったため、まさに幻の新幹線だ。運転席や客席は当時のまま残されている。鉄道展示室には中央に鉄道模型が走るジオラマがあり、壁にはリアモーターカー開発の歴史を伝えるパネルが展示されている。

DATA JR国立駅北口から徒歩約5分。新幹線資料館10時～16時30分・鉄道展示室9時～17時、第2・4月曜(祝日の場合は翌日)休。無料。国分寺市光町1-46-8。☎042-573-4370(ひかりプラザ)

本物の新幹線の運転席に座れる



下/ボタンを押して列車を動かすことのできる鉄道展示室のジオラマ。左/車内の資料館には鉄道関係の本や雑誌などがそろっているので親子で楽しめる。



丹精込めて作られたくにたち野菜を味わってください。



上/店長の岩田野花さん。右上/国立産の国立養蜂のはちみつ(右)と、国立名物のひとつ、はちみつ飴。下/店の外いっぱいまで国立と周辺地域の新鮮な野菜が並び。



駅の近くで地元野菜を購入したい

くにたち野菜 しゅんかしゅんか

国立やその周辺で採れる野菜や卵、地域の加工品がそろそろ。毎日朝と昼、農家に直接野菜の集荷にまわるので新鮮さはもちろん、市場に出ないような珍しい野菜も並び。農家の方から聞いた野菜作りのこだわりや、素材を生かす料理法などを店頭のスタッフが教えてくれる。国立産のハチミツを使った「はちみつ飴」は人気のオリジナル商品。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約4分。10時30分～19時30分、月曜休。国立市中1-1-1。☎042-505-7315

国立 くにたち まち歩き



自然の中で親子で楽しめる

「ケガと弁当は自分持ち」がモットーの自由な遊び場です。

上/廃材を使って木工をする子どもたち。道具の使い方を教える、あとは子どもの自由。この日の子どもたちはのこぎりやかなづちの使い方も馴れたもの。一日で椅子を作ってしまう子もいるという。右/代表の中山隆志さん。10月には1泊のキャンプを行い、昨年は100人もの参加者が集まった。



「アトリエ国立」(モンブラン)

冒険遊び場(プレーパーク)

国立市南部にある自然豊かな城山公園で、毎週日曜に開かれている子どもたちのための遊び場。ハンモックに揺られたり、木と木の間に張ったロープを渡ったり、ロープを使って木登りをしたり、手作りの遊具で自由に遊ぶことができる。木工や昔ながらの凧揚げ、コマ遊びも人気。毎回、片付けの時間ぎりぎりまで遊ぶ子どもたちのにぎやかな声が園内に響いている。

DATA JR中央線国立駅南口からバス約14分の「くにたち郷土文化館」下車徒歩約13分、またはバス約8分の「市民芸術小ホール」下車徒歩約11分、またはJR南武線谷保駅南口から徒歩約15分。10時～16時、日曜のみ開催。無料。国立市泉5-21-1。☎042-575-3178(国立市矢川児童館)

気軽に立ち寄ってください。未知の本と出会えます。



国立本店

本と街をテーマに、約40人のメンバーが運営するコミュニティスペース。店内は古本屋のように見えるが、棚に並ぶ本はメンバーが持ち寄ったもので自由に読むことができる。ここで編集発行している国立の街をテーマにした「国立文庫」は人気の文庫だ。地元の書店とコラボして、ブックフェアなども行っている。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約4分。13時～18時、月・木曜休。国立市中1-7-62。☎042-575-9428



新鮮な発想で街の魅力を引き出す

左上/代表の加藤健介さん。下/「ほんの団地」と名付けられた本棚は、それぞれのメンバーが棚をひとつ持ち、お気に入りやおすすめの本を置いている。来店者は自由に閲覧できる。



子どもたちの笑顔が活動のエネルギー源です。

「子どもたちが国立を離れても、環境に関心をもち、思いやりのある人に育ってほしい」と、思いを語る大谷さん。いつか国立の桜を、そして街の環境を守る役を担ってほしいと願っている。

くにたち桜守代表 大谷和彦さん

「桜と話したことがありますか?」くにたち桜守の代表、大谷和彦さんの問いに、小学校低学年の子どもたちが不思議そうな顔を向ける。桜の木を叩き、その音で木の健康状態が調べられることがわかると、子どもたちは納得の表情に。大谷さんが都心から国立に引っ越してきたのは25年ほど前。「大学通りやさくら通り、一橋大学のキャンパスなど、街中に緑がありふれ、南部には豊かな自然があります。しかも人と人が交流しやすい街のサイズで、すっかり気に入りました」

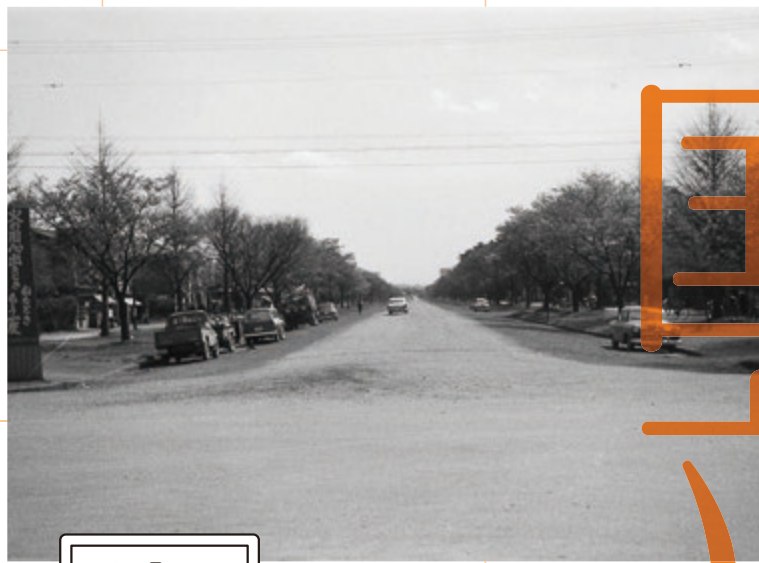
桜と縁ができたのは20年ほど前のこと。さくら通りの桜の中に、樹皮がはがれ、傷ついているものがあるのに気がつき保全活動に取り組み始めたのだ。花だけではなく、木そのものにも注目してもらえようイベントなどで広報活動にも力を入れた。次第に協力者が増え、行政を巻き込み、平成12年にボランティア団体「くにたち桜守」を設立した。子どもたちへの出前授業も桜守活動の一環だ。

「桜をきっかけにこの街の魅力に気づき、好きになってほしい」という願いから、自ら学校の門を叩いて実現。国立市内の小・中・高校生に、桜守の活動を体験してもらっている。授業を受ける子どもたちの数は毎年約3000人。活動当初の生徒たちは、すでに就職したり、子どももいたりする。

「子どもたちが国立を離れても、環境に関心をもち、思いやりのある人に育ってほしい」と、思いを語る大谷さん。いつか国立の桜を、そして街の環境を守る役を担ってほしいと願っている。

国立の魅力

この人に聞く



昭和36年頃の春の大学通り。
写真提供:くにたち郷土文化館

街の生い立ち

History in this town

今、街の中心としてにぎわう大学通り周辺は、かつては一面の雑木林。国立の開発と発展の歴史を辿ってみよう。

かつて国立は谷保村と呼ばれ、大正時代末期までは農業と養蚕が中心の村落だった。当時の村の中心は南部で、東西に走る甲州街道沿いに農家が並び、周囲に広がるのは畑ばかり。現在の国立の中心、駅のある北部には雑木林があり、村の人は「ヤマ」と呼んでいた。

大正時代、大泉学園や小平で学園都市の開発を手掛けていた箱根土地株式会社(現在の株式会社王子)が、現在の国立の中心、駅のある北部に「ヤマ」と呼んでいた。

大正15年(1926)、東京高等音楽学院(現在の国立音楽大学)ができ、昭和2年(1927)には東京商科大学が移転。とはいえ、学校の施設と、大学通り、旭通り、富士見通りが整備されているだけで、周囲にはまだ雑木林が広がっていた。

現在のような住宅街が形づくられていくのは第二次世界大戦後のこと。昭和27年には建設省と東京都から「文教地区」の指定を受け、教育上好ましくないとされる業種の進出が規制されることになった。この指定は市民や学生が中心となつて運動を起し、獲得したもので、今でも教育環境を維持するための国立の大きな財産となっている。

時とともに街も人も変化をするが、これからも市民や学生が国立ならではの環境を守り、引き継いでいくことだろう。

株式会社プリンスホテル)が、このヤマの開発に乗り出した。学園都市構想の実現のため、箱根土地は「橋大学の前身、東京商科大学を誘致。大正14年(1925)に正式契約を交わし、翌15年4月に国立駅が開業した。

ところで「国立」の駅名の由来をご存知だろうか。両隣の駅「国分寺」(当時、西国分寺駅はまだなかった)と「立川」、それぞれの頭の文字を取って命

名された。また開業当初、南口駅前ロータリーの真ん中にある池は水禽舎だった。今では覚えている人も少なくなったが、周囲にはベンチが置かれ、水鳥の姿を楽しめる憩いの場だったという。

大正15年(1926)、東京高等音楽学院(現在の国立音楽大学)ができ、昭和2年(1927)には東京商科大学が移転。とはいえ、学校の施設と、大学通り、旭通り、富士見通りが整備されているだけで、周囲にはまだ雑木林が広がっていた。

最新号 『散歩の達人』4月号 発売!

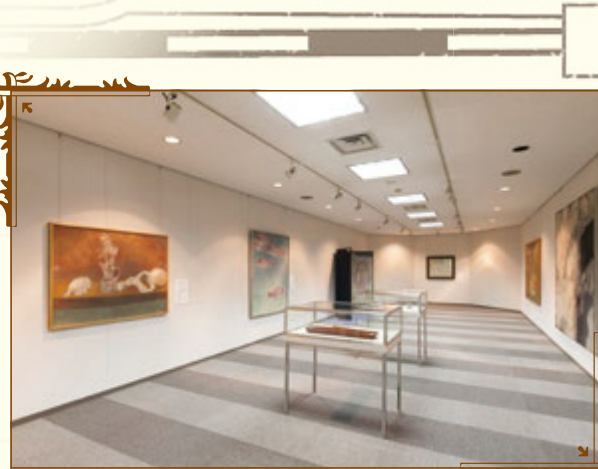
散歩の達人20周年記念号第1弾企画
巻頭特集/達人たちが語る、100通りの「そこで飲む理由」
酒場100軒!
人は誰でも、心の店を持っている。しかし、「その店がなぜいいのか」という部分を突き詰めていくと、100人いれば100通りの理由があるだろう。有名、無名を問わず、専門家、「散歩の達人」スタッフ、散歩・東京のエキスパート、その他有名人など100人にインタビュー。それぞれに、それぞれの立場から絶対に行くべき1軒を選んでもらいます。お酒を嗜む方、酒場好きな方、必見。



※本冊子の情報は2016年3月現在のものです。※料営・営業時間・休館日、イベント内容・期間などは変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。※営業時間・休館日)はゴールデンウィーク、お盆、年末年始などは変更になる場合があります。※掲載の写真・地図などは全てイメージです。

デジタルブックでもご覧いただけます。
中央線が好きだ。

中央線が好きだ。マガジン 2016 vol.6
2016年3月発行
発行|東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
制作|株式会社ジェイアール東日本企画
編集|株式会社交通新聞社
表紙写真|国立情報WEBマガジン くにたちハッピースポット



◆たましん歴史・美術館

多摩地域を代表する作家の作品をはじめ、絵画、古陶磁、彫刻、浮世絵など「たましんコレクション」の中から、テーマごとに展示する企画展を年4、5回開催。昨年好評だった夏休みの子ども向け展覧会を今年も準備中。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約2分。10時~18時(入館は17時30分まで)、月曜・祝日・展示替期間休。大人100円、中学生以下無料。国立市中1-9-52 多摩信用金庫国立支店6F。☎042-574-1360



◆ル・ヴァン・ド・ヴェール

創業約50年。国立の住民に愛される老舗フレンチレストラン。石畳のアプローチの奥にたたずむ一軒家は、昭和初期建築の邸宅を改装したもの。フレンチだけでなく、さまざまなテイストを取り入れたコースのほか、カフェとしても利用できる。



DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約3分。11時~22時(20時30分LO)、月曜(祝日の場合は翌日)休。国立市中1-16-35。☎042-576-1150



◆レ・アントルメ国立

国内外で数々の受賞歴をもつ紛澤信次氏がオーナーシェフの店。現在は、ここで学んだのちフランスで修業を積んだアリエシェフの相原克良氏が腕をふるう。店内にはケーキや焼き菓子、マカロンのほかチョコレート、パンなど、旬の天然素材を使ったシンプルで伝統的なフランス菓子が並び。

DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約15分。10時~19時、水曜休。国立市東2-25-50。☎042-574-0205

国立

大学通り



◆伊藤屋

ヨーロッパ各地で修行したオーナーパティシエが作るケーキは、素材を生かした味わいと洗練された見た目が特徴。一番人気はシュークリームをアレンジした「ビュイダムール」。クルミをいっぱい使ったパウンドケーキ「ノア」は地元土産の定番品。



DATA JR中央線国立駅南口から徒歩約3分。10時~20時、木曜休。国立市中1-16-33。☎042-577-0121



◆くにたちアートビエンナーレ

昨年、初めて開催された芸術祭「くにたちアートビエンナーレ」。全国公募によるコンクール形式で入賞作品が決定した。入賞作は大学通り各所に設置されていて、道行く人々の目を楽しませている。写真は優秀賞「風の球体」(チーム美山作)。

大学通りの風景

◆国立を象徴する美しい道

洗練された雰囲気、店舗が並び大学通り。歩道脇の緑地帯にはところどころにベンチが設けられ、アート作品の展示も。のんびりと散策しながら、お気に入りのスポットを見つけたい。



◆レンツ社の街灯

夕暮れとともに広い歩道を照らし出すレトロなデザインの街路灯。これはパリのシャンゼリゼ通りなどにも設置されているフランスのレンツ社のもので、大学通りに落ち着いた雰囲気を与えている。

地域で出会った人

地域の魅力を活かし まちづくり・仕事づくりをサポート



地域のものづくりスペースで
商品開発のミーティング。

国立エリアに特化した求人サイト
「国立人 小さなまちの仕事さがし」。



「地域に根ざしたプロジェクトの立ち上げやコミュニティビジネスの支援に特に力を入れています」と事務局長を務める間瀬英一郎さん。コミュニティビジネスとは地域の課題をビジネス

国立で起業を考えている人にとって、心強い味方が「CESAくたち」。民営の起業支援機関として、セミナーやワークショップの開催、アドバイスや各種手続きのサポートなどを行っている。また、起業家向けのシェアオフィス「SOHOプラザハニカム」も運営している。「地域に根ざしたプロジェクトの立ち上げやコミュニティビジネスの支援に特に力を入れています」と事務局長を務める間瀬英一郎さん。コミュニティ



間瀬英一郎さん
CESAくたち事務局長

「以前からアートによるまちづくりに関心があり、縁のある映像作家たちが「TOUCH」をテーマに制作した92秒のショートムービーを上映する映像展、その名も「92 TOUCH (クニタッチ)」。

「TOUCH」をテーマに制作した92秒のショートムービーを上映する映像展、その名も「92 TOUCH (クニタッチ)」。

の手法で解決する事業だという。最近の例として挙げたのが、生活困難の問題を抱えている女性たちへの支援。この課題に取り組みNPO法人を設立からサポートしている。現在は官民協働による解決を図るため、市との橋渡し役を務めているほか、女性たちが自立に向けて働くことのできる就労支援カフェの開業準備にも携わっている。間瀬さんは個人としても国立のまちづくりに積極的だ。昨年開催された「くにたちアートビエンナーレ」では、市民で構成される実行委員会に参加。メインの野外彫刻展とともに、市民主体のさまざまなアートイベントが催され、間瀬さんは映像展を手掛けた。国立に

Information

「国立人 小さなまちの仕事さがし」国立で働きたいと思っている方にはぴったりの求人サイト。
<http://kunitachijin.com/>
「モバイル屋台」の最新情報はこちらのアドレスに。
<http://facebook.com/mobileyatai/>

「国立はヒューマン・スケールの小さなまち。その魅力を活かして、暮らしのそばで働く職住近接のライフスタイルを広めたい、という思いから求人サイトを立ち上げました」リアルからウェブまで、とことんまちづくり・仕事づくりにこだわる間瀬さんの「国立愛」は止まらない。

「国立はヒューマン・スケールの小さなまち。その魅力を活かして、暮らしのそばで働く職住近接のライフスタイルを広めたい、という思いから求人サイトを立ち上げました」リアルからウェブまで、とことんまちづくり・仕事づくりにこだわる間瀬さんの「国立愛」は止まらない。

大学時代からサークルで自主映画を制作していた経験もあつて企画しました」という間瀬さんがまちづくりの面白さに目覚めたきっかけもアートイベントだった。平成19年に開催された「SOZON国立2007」。当時、年下の大学生たちがイチから企画して、市と連携しながら実現に至ったプロセスを目の当たりにし、触発されたという。そんな間瀬さんが今、同じまちづくりをめざす起業家とともに取り組んでいるプロジェクトがある。地域密着型の求人サイト「国立人 小さなまちの仕事さがし」だ。「国立はヒューマン・スケールの小さなまち。その魅力を活かして、暮らしのそばで働く職住近接のライフスタイルを広めたい、という思いから求人サイトを立ち上げました」リアルからウェブまで、とことんまちづくり・仕事づくりにこだわる間瀬さんの「国立愛」は止まらない。



小高いの起業支援として「モバイル屋台」も開発。スーツケース大に収納でき、片手で持ち運べる優れたもの。

TOPICS

今春90周年！ 街とともに歩んでゆく国立駅

大正15年(1926)4月1日に開業した国立駅は、この春、90周年を迎えます。これを記念して、3月25日(金)～4月17日(日)の間、限定記念品が貰える「90周年記念スタンプラリー」を開催します！

また、昨春開業したnonowa国立EASTに続き、4月24日(日)にnonowa国立WESTが開業。食卓を支えるバラエティー豊かな食材や、日々の暮らしに彩りを添えるスイーツ・デリがそろうフードゾーンが誕生します。

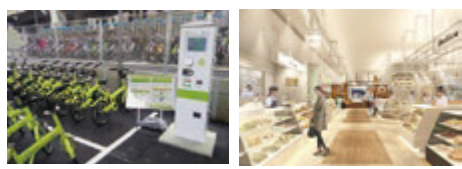
さらに、駅西側に交通系ICカード専用の改札「nonowa口」を新設すると共に、駅西側高架下には、Suicaで24時間、いつでも使えるシェアサイクル「Suicicle」のポートを整備。国立駅がますます便利になります。この機会にぜひ国立駅とnonowa国立にお越しください。



国立駅開業90周年記念ロゴ。



日々の食卓を支える「nonowa MARCHE」。新鮮食品が勢ぞろい！



右 / nonowa国立WEST館内イメージ。買い物がますます楽しくなる。左 / 駅のそばにあるSuicicleポート。自転車なら街めぐりがさらに便利。下 / nonowa国立WEST北側外観イメージ。ののちでウインドウショッピング。

※画像は全てイメージで、変更になる場合がございます。

詳細情報は右記URLで <http://www.nonowa.co.jp/>